蛭田坪遺跡

―江川小松原線道路改良事業に伴う発掘調査報告書―

2010年9月

財団法人　和歌山県文化財センター

蛭田坪遺跡

― 江川小松原線道路改良事業に伴う発掘調査報告書 ―

2010 年9月

財団法人 和歌山県文化財センター

Ⅰ　調査に至る経緯の経過

蛭田坪遺跡は、これまでの発掘調査の成果から弥生時代から中世にかけての遺跡であることが明らかになっていた。平成22年に遺跡の範囲内で県道191号江川小松原線改良工事がおこなわれることになり、同年４月に和歌山県教育委員会文化遺産課が工事立会を実施した。

工事立会は、対象地の範囲に幅1m前後×長さ1.7～2.5mのトレンチを２箇所設定し、掘削は工事施工深度の1mを目処に、機械により実施した。その結果、西側の１トレンチから旧耕作土･床土直下で遺構面を確認し、重複するピット２基（本報告遺構３・４）を検出した。東側の２トレンチでは地山面が下がり、工事施工深度内には遺構面が存在しないことが明らかになった。

調査の成果から、２トレンチから東側には埋蔵文化財が展開せず、１トレンチから２トレンチの西側直近までの範囲において、施工深度内に埋蔵文化財が展開している可能性が高いと判断された。これを受け、工事の施工により埋蔵文化財が損壊される範囲について記録保存を目的とした本発掘調査をおこなうことになり、和歌山県（日高振興局建設部）が財団法人和歌山県文化財センターに調査を委託した

本発掘調査は、平成22年７月１日より同年７月23日まで実施し、その後出土遺物の整理業務をおこない、調査報告書を刊行した。

写真１　調査風景

Ⅱ　遺跡の位置と環境

蛭田坪遺跡が所在する御坊市は、紀伊半島の西海岸を占める和歌山県のほぼ中央に位置し、太平洋に面する。市域は、県下をほぼ南北に分断するように流れる日高川の河口域周辺に展開し、面積は約44k㎡を有する。古来より、紀北地方を介しての畿内文化の影響と、紀南・熊野地方を介しての東海地方の文化の影響を受けた地域と言え、日高地方の中核として発展してきた。

市内には、旧石器時代にはじまり中・近世に至る多くの遺跡が遺されており、県下でも有数の遺跡が密集する地域である。日高川以南の丘陵地帯には、可耕地は少ないものの多くの古墳が築かれており、特意な状況を呈している。また、旧石器時代の遺跡も集中する地域としても周知され、海岸段丘上に立地することで、県下の他の遺跡群とは異なる。日高川以北には、県下第二の沖積平野である日高平野が拡がり、旧日高川が形成した自然堤防の微高地上には縄文後期以降になって集落が営まれるようになる。弥生時代の遺跡は多く、国内最古とされる青銅器の鋳型が出土した堅田遺跡は、全国的にも著名な弥生時代前期の環濠集落で、農耕祭祀に使われたとされる銅鐸が平野部周辺から７個発見されていることも特筆すべきことである。また、平野部の北東に

ある独立丘陵の亀山には高地性集落も存在する。古墳は亀山やその周辺の丘陵に多く、古墳群を形成している。奈良時代の地方の役所である日高郡衙は、堅田遺跡の一画で発見され整然と並ぶ掘立柱建物が検出されている。このほか、中世後半期に日高を中心に牟婁・有田地方に影響力をもった湯川氏の城跡が亀山に、館跡がその麓に築かれている。

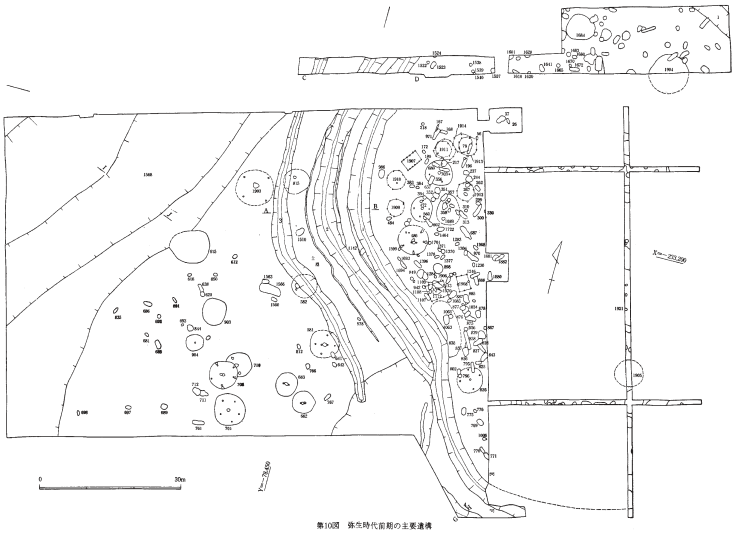


図１　堅田遺跡環濠集落

今回調査を実施した蛭田坪遺跡は、御坊市湯川町小松原地内に所在し、昭和の後半代にJR御坊駅南西にある病院前で、用水路建設工事中に土師器などが採集され周知された。その範囲はJR御坊駅の南東に東西に長く拡がる。

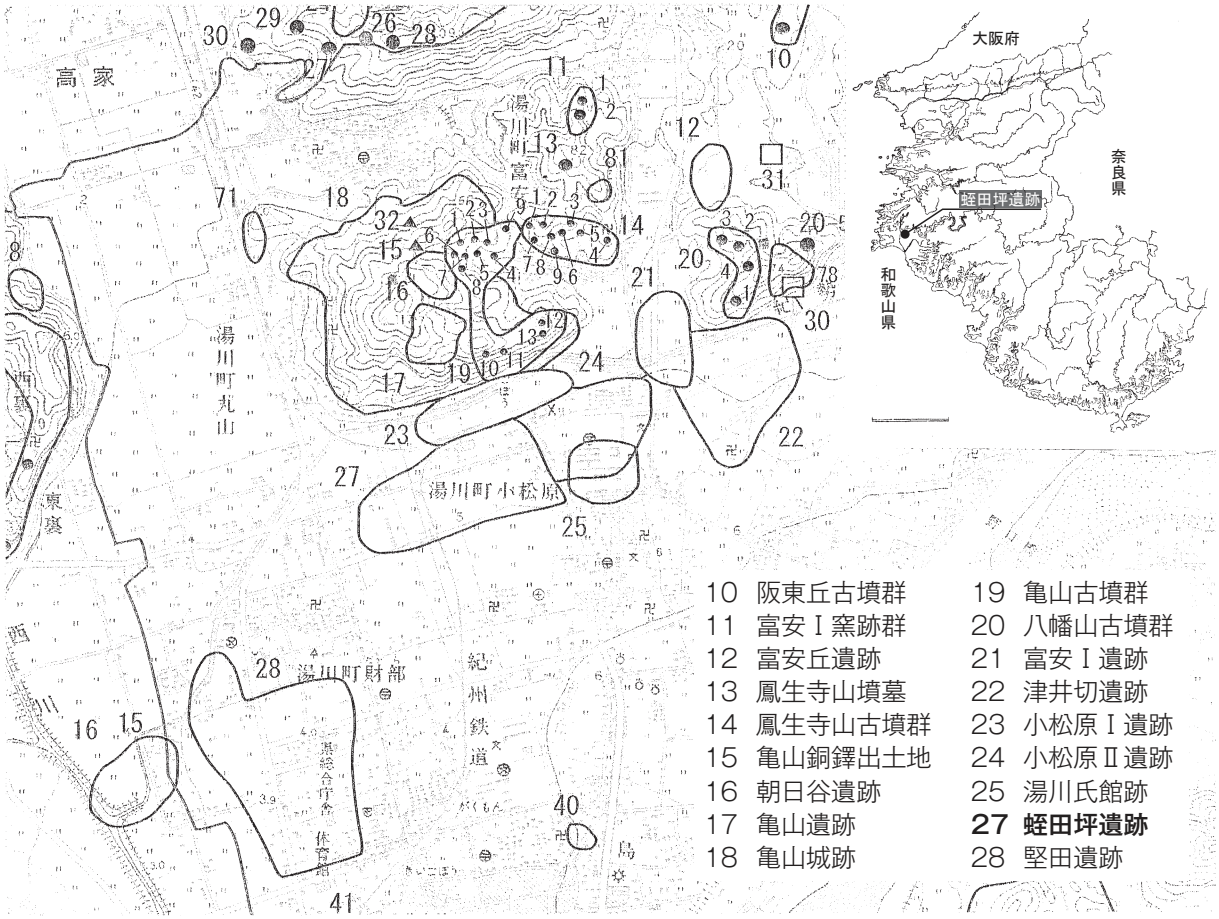
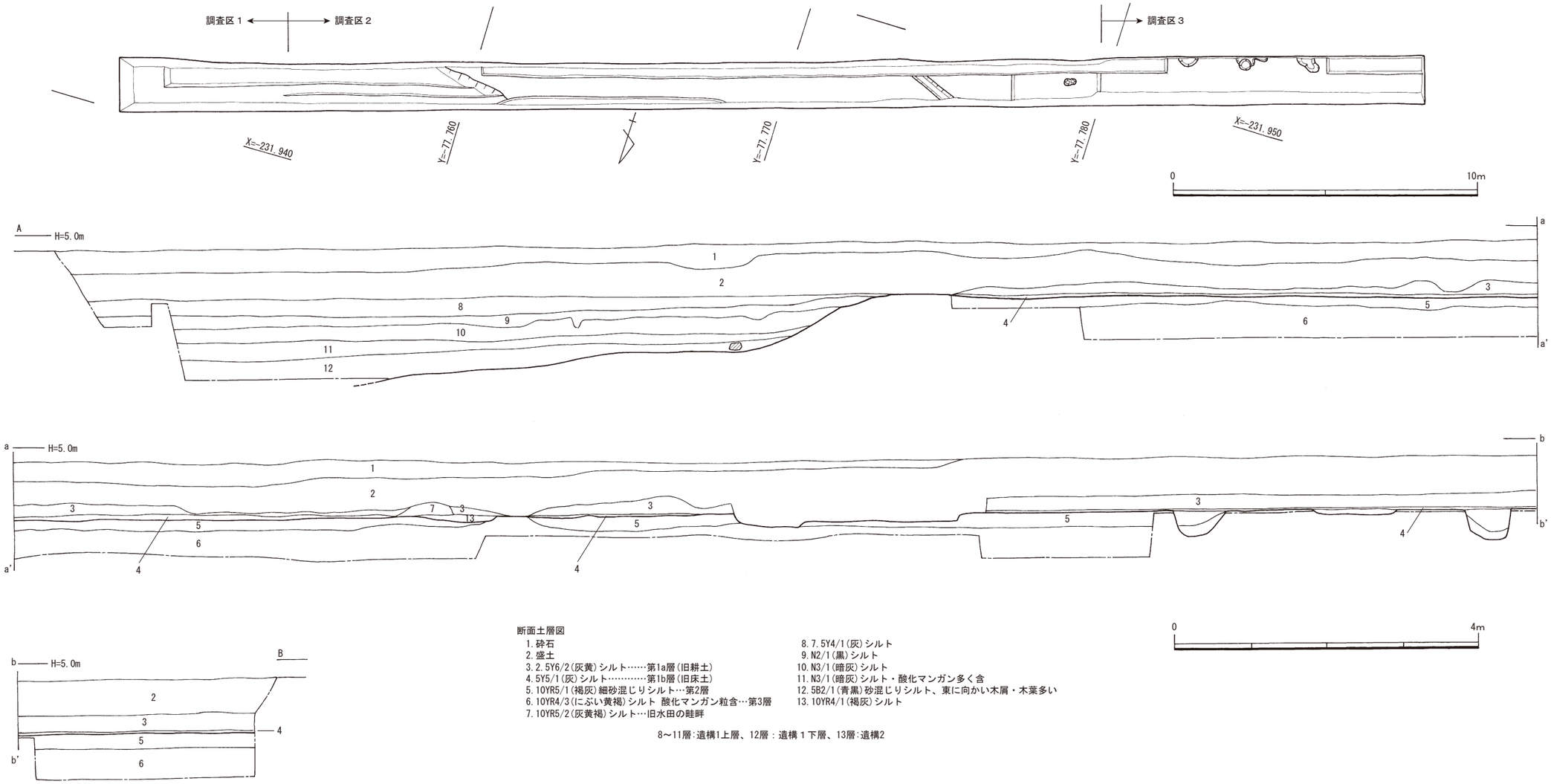


図２　遺跡所在地（s=1/25,000）



断面土層図

1. 砕石
2. 盛土
3. 2.5Y6/2(灰黄)シルト……第1a層(旧耕土)
4. 5Y5/1(灰)シルト……第1b層(旧床土)
5. 10YR5/1(褐灰)細砂混じりシルト…第2層
6. 10YR4/3(にぶい黄褐)シルト 酸化マンガン粒含…第3層
7. 10YR5/2(灰黄褐)シルト…旧水田の畦畔
8. 7.5Y4/1(灰)シルト
9. N2/1(黒)シルト
10. N3/1(暗灰)シルト
11. N3/1(暗灰)シルト・酸化マンガン多く含
12. 5B2/1(青黒)砂混じりシルト、東に向かい木屑・木葉多い
13. 10YR4/1(褐灰)シルト

8～11層:遺構1上層、12層：遺構１下層、13層:遺構2

図３　調査区全体図・断面土層図

Ⅲ　調査の方法と基本層序

1．調査の方法

調査区は幅 1.5m、長さ約 43m の区間で、住宅への進入路を確保するため３分割（調査区１～３）にして調査を実施した。盛土と旧耕作土は機械により掘削し、そのより下を人力により掘り進め、遺構検出・掘り下げをおこなった。また、遺構検出したベース下に遺構や遺構面が存在しないかどうかを確認するため、サブトレンチを設けて断割りをおこなった。

遺構平面図と壁面土層図は、手実測により 1/20 のスケールで作成した。記録写真については６×７判モノクロームフィルム、35㎜カラーリバーサルフィルムを使用し、適宜デジタルカメラによる撮影をおこなった。

２．基本層序（図４、図版６）

第 1a 層は旧耕作土の 2.5Y6/2（灰黄）シルトで、その上に盛土がなされ砕石が敷かれていた。第 1b 層は旧耕作土に伴う床土の 5Y5/1（灰）シルトである。第２層は 10YR5/1（褐灰）細砂混じりのシルトで、今回この上層で遺構を検出している。第２層は 15 ～ 20㎝の厚さで水平堆積しており、古い時期の水田層であった可能性がある。第３層は 10YR4/3（にぶい黄褐）シルトに酸化マンガンを含む層で、50㎝以上の厚さで堆積し、わずかであるが弥生土器あるいは縄文土器と考えられる細片（10・11）が出土している。

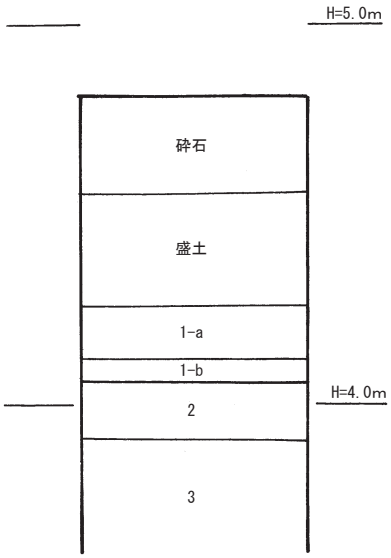


図４　基本層序

Ⅳ　調査の成果

調査区の東で谷状の落ち込み（遺構１）を、それより西側では、溝やピットなどを検出した。すべての遺構は第２層上面で検出している。

遺構１（図３・５、図版３・４・６）調査区内で北方向に下る肩部を検出している。長さは 13.0m 以上、深さ 1.0m 以上で、立会調査の２トレンチの土層断面からも更に北・東に拡がっていると考えられる。堆積土はシルト層からなる上層と有機物を多く含む下層とに分けることができる。安全面を考慮して底まで掘り下げていないが、確認し得た範囲で

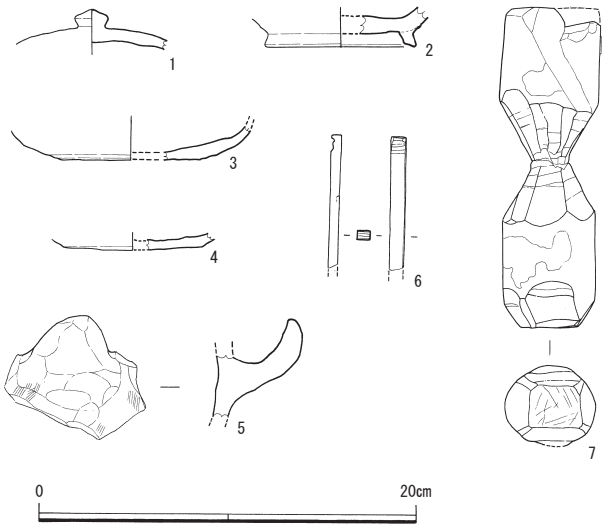


図５　遺構１出土遺物

は流れを示すラミナ状の堆積は見られず、溝・流路などの性格をもたないと考えられる。

遺物は上層から須恵器（１～３・８）、土師器、結晶片岩が、下層から須恵器（４）、土師器（５）、弥生土器（９）、木製品（６・７）が出土している。

１は杯蓋で、天井部中央に宝珠様の摘みを付す。内外面は回転ナデ調整である。２・３は杯身で、このうち２は底部端に強く張り出した高台を付す。内外面は回転ナデ調整である。３は高台がないタイプで、底部外面は未調整、内面は不整方向のナデ調整である。８は甕の頸部付近の破片で、外面にカキ目を施す。４は杯身で外底部が未調整で、内面は回転ナデ調整である。５は鍋などの把手部分で、形状は舌状を呈する。細かいハケ調整が認められる。９は後期の甕体部の破片で、外面に横方向の平行タタキを施す。６は方柱状の木製品で、片方の端部が欠損し全容・用途は不明である。仕上げは丁寧で、残存する端部付近には切込みを施している。７は俵や筵を編む時に使う木錘で、輪切りにした芯持材の側面を削り込んで鼓状にしたものである。樹皮の一部が残存している。

遺構２（図版４）調査区の中央付近で検出した溝状遺構で、調査区内で約 2m を検出している。幅 40cm、深さ 10cmで、東西方向に走り、遺構１の肩部が延びる方向と同じである。遺物は土師器あるいは弥生土器の細片が出土している。

遺構５・７・８（図６、図版５）調査区の西端付近で検出したピットで、直径 40 ～ 60cm、深さ約 35cmを測る。３基のピットとも柱の痕跡は確認できなかったが、約 2m の間隔で、ほぼ一直線に並ぶ状況から掘立柱建物を構成する柱穴であった可能性がある。どのピットからも遺物が出土しないことから時期は不明である。

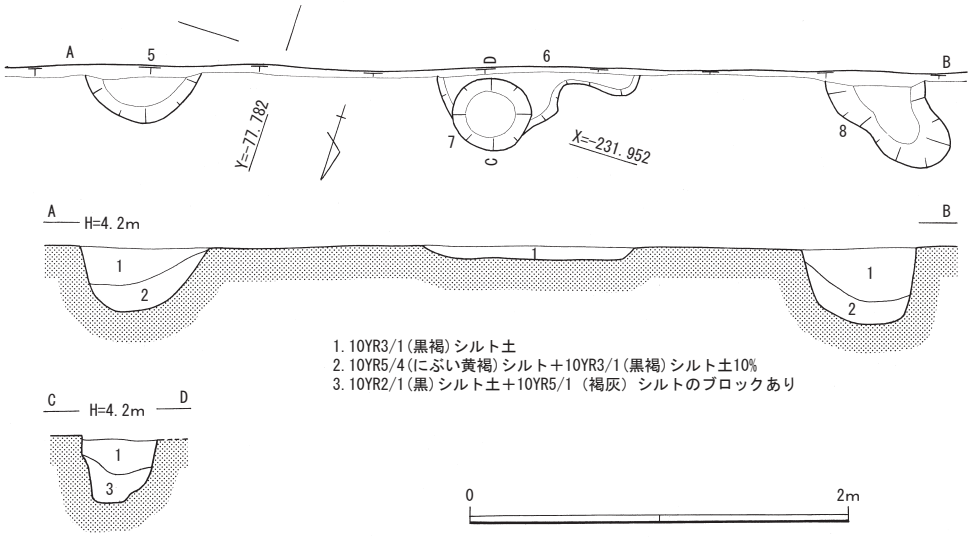


図６　遺構５～８

Ⅴ　まとめ

1．蛭田坪遺跡の立地

蛭田坪遺跡は、古い時期の日高川が、現在の流れより西方に大きく迂回していたとき形成された自然堤防上に立地している。微高地となる自然堤防上には、弥生～古墳時代の主だった遺跡が展開しており、上流部より法徳寺遺跡－東郷遺跡－津井切遺跡－小松原Ⅱ遺跡－蛭田坪遺跡－堅田遺跡－田井・西川遺跡－堂の前西沼遺跡と続く。また、日ノ岬の基部から日高川の河川にかけては海岸砂丘が発達しており、この砂丘上には、弥生～古墳時代にかけての墓地が営まれている。

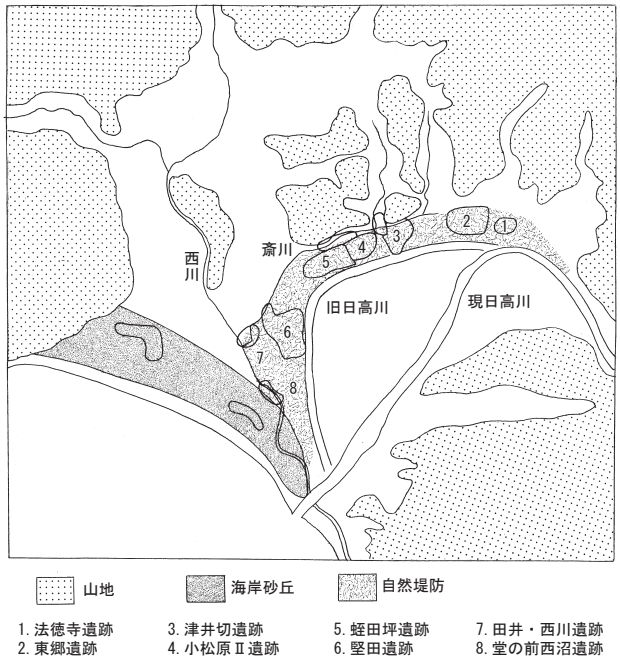


図７　蛭田坪遺跡の立地（ｓ＝1/100,000）

現在の斎川は、自然堤防の後背地の名残であると考えられ、堅田遺跡付近で古い時期の西川と合流していたと考えられる。ただ、これらの河川とは別に、微高地を縫うように、更に小さな河

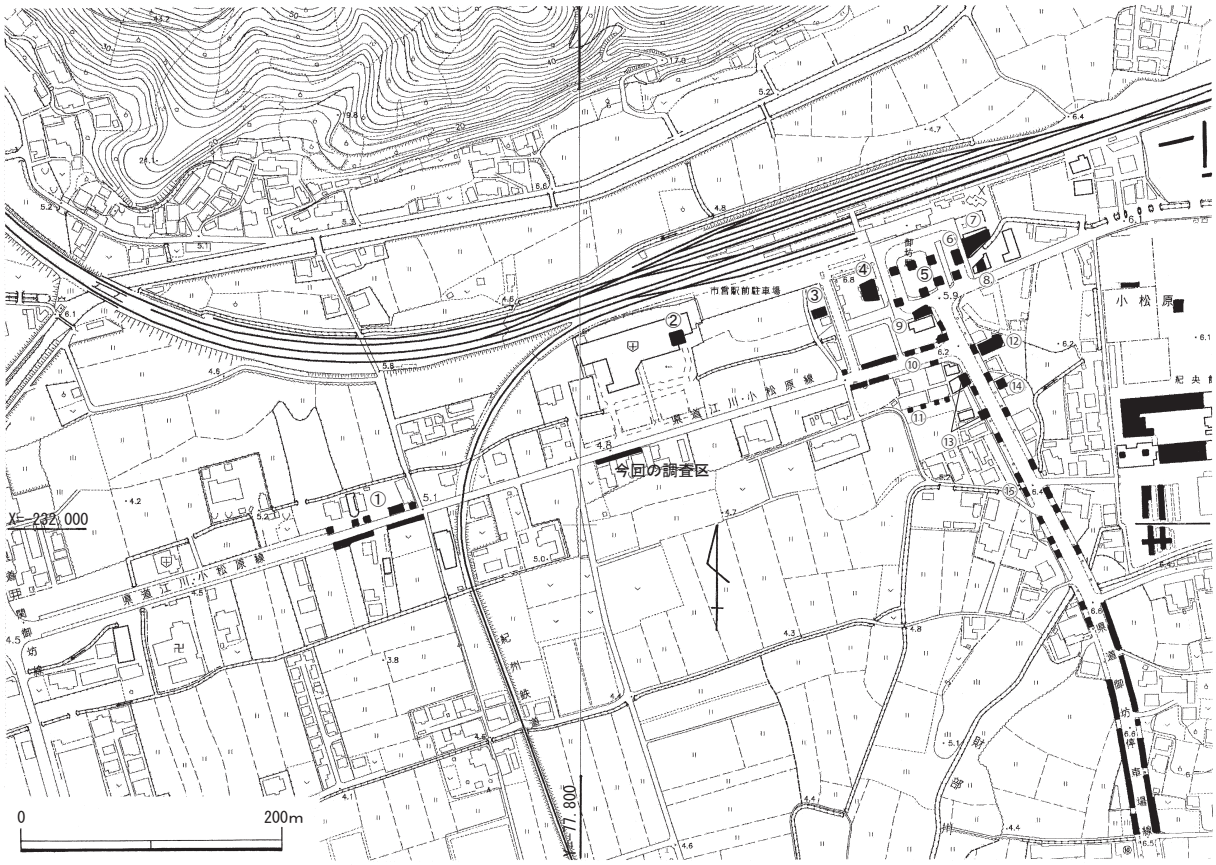


図８　既往の調査区

表１　既往の調査

	調査年月	調査理由	面積	調査機関	主な時代	主な遺構	主な遺物	備考	報告書（文献）		
									書名	編集機関	発行年
①	2003. 08～11	県道江川小松原線 改良事業	240㎡	（財）和歌山県 文化財センター	弥生時代	溝・土坑・柱穴	弥生土器　須恵器	トレンチ状の調査区７箇所 蛭田坪遺跡の西限	（財）和歌山県文化財センター 年報 2003	（財）和歌山県 文化財センター	2004
②	2000. 04	病院建設	130㎡	御坊市文化財 調査会	鎌倉時代	自然流路・杭列	弥生土器　須恵器　土師器 製塩土器　瓦器 サヌカイト		蛭田坪遺跡	御坊市文化財 調査会	2001
③	1992. 03	店舗兼住宅建設		御坊市教育 委員会	奈良時代	溝	須恵器　土師器		平成３年度 御坊市内遺跡発掘調査概報	御坊市教育 委員会	1992
④	1985. 01～03	店舗建設	210㎡	御坊市教育 委員会	弥生時代中期 奈良時代	方形周溝墓 溝	弥生土器　須恵器　土師器 製塩土器		昭和 59 年度 富安Ⅰ遺跡他発掘調査概報	御坊市教育 委員会	1985
⑤	1988. 11～12 1989. 11～12	御坊駅前広場 整備事業	200㎡	御坊市遺跡 調査会	弥生時代 古墳時代 奈良時代 中世	竪穴住居　溝 土坑	弥生土器　須恵器　土師器 サヌカイト	グリッド８箇所	御坊駅前広場整備事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査略報	御坊市遺跡 調査会	1989
⑥	1989. 11～12	御坊駅前広場 整備事業	144㎡	御坊市遺跡 調査会	弥生時代 奈良時代 中世	竪穴住居　溝 土坑	弥生土器　須恵器　土師器 製塩土器　サヌカイト	⑤の調査のグリッド４を拡張燃失住居	御坊駅前広場整備事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ	御坊市遺跡 調査会	1990
⑦	1995. 09	店舗建設		御坊市教育 委員会	弥生時代 中世	竪穴住居　溝 土坑	弥生土器　サヌカイト 瓦器				
⑧	1983. 05～06	住宅建設	120㎡	御坊市教育 委員会	弥生時代	溝　土坑 ピット	弥生土器　須恵器　土師器		昭和 58 年度 富安Ⅰ遺跡他発掘調査概報	御坊市教育 委員会	1984
⑨	1990. 08～09	御坊駅前広場 整備事業	140㎡	御坊市遺跡 調査会	弥生時代 古墳時代 奈良時代　中世	溝	弥生土器　須恵器　土師器 砥石　木製品	多くの溝が縦走する　弥生時代の溝は環濠？	御坊駅前広場整備事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ	御坊市遺跡 調査会	1990
⑩	1993. 12～ 1994. 01	御坊駅前新川橋線 街路整備工事	160㎡	（財）和歌山県 文化財センター	弥生時代 古墳時代 古代 中世	溝　土坑 ピット	弥生土器　須恵器　土師器 瓦器　陶磁器	トレンチ状の調査区７箇所	蛭田坪遺跡	（財）和歌山県 文化財センター	1994
⑪	2000. 10	集合住宅建設	16㎡	御坊市教育 委員会	古墳時代	竪穴住居　溝 土坑	須恵器　土師器	グリッド４箇所	平成 12 年度 日高郡衙跡他市内遺跡確認調査概報	御坊市教育 委員会	2001
⑫	1980. 07～08	店舗建設	210㎡	御坊市遺跡 調査会	弥生時代 古墳時代 古代 中世	溝　土坑 掘立柱建物 ピット	弥生土器　須恵器　土師器 製塩土器　瓦器	弥生時代の溝は環濠？	1980 年度 埋蔵文化財発掘調査概報	御坊市遺跡 調査会	1981
⑬	1989. 01	住宅建設	2.5㎡ 5.5㎡	御坊市教育 委員会	弥生時代 奈良時代 中世	溝　土坑	弥生土器　須恵器　土師器 製塩土器		昭和 63 年度 御坊市内遺跡発掘調査概報	御坊市教育 委員会	1989
⑭	1989. 04	住宅建設	6㎡	御坊市教育 委員会	古墳時代	溝　ピット	須恵器		平成元年度 御坊市内遺跡発掘調査概報	御坊市教育 委員会	1990
⑮	1993. 08～09	御坊駅前吉原線 街路整備工事	150㎡	（財）和歌山県 文化財センター	弥生時代 古墳時代 古代	竪穴住居 掘立柱建物 溝　土坑	弥生土器　須恵器　土師器 製塩土器　黒色土器 中世陶磁器	トレンチ状の調査区 19 箇所　古代の遺物が多い	蛭田坪遺跡	（財）和歌山県 文化財センター	1993

川が複雑に流れていたことが堅田遺跡の調査などで明らかにされている。

蛭田坪遺跡は東西に長く、弥生時代～中世の遺構検出面がJR御坊駅付近よりおおよそ標高4m前後で続き、周知の遺跡範囲の西端で低地となって落ち込み、北側も徐々に低くなることが確認されている。また、東側はほぼ同レベルで小松原Ⅱ遺跡へと繋がっている。これは、自然堤防上に遺跡が展開する証左であり、おそらく微高地遺跡の西端付近から堅田遺跡方向へ自然堤防が南西方向に湾曲するものと考えられる。

２．蛭田坪遺跡の位置づけ

蛭田坪遺跡は、東に接する小松原Ⅱ遺跡と一連の遺跡であると考えられ、二つの遺跡は、大まかに駅前通りを境に東西に分けられている。

蛭田坪遺跡の発掘調査は、これまで道路改良工事や店舗・住宅等の建設に伴い、（財）和歌山県文化財センターや御坊市教育委員会・御坊市遺跡（文化財）調査会によって、数多く実施されている。調査区は狭小なものが多いものの、断片的ではあるが蛭田坪遺跡の内容の一端が明らかになってきている。図８と表１はJR御坊駅周辺と、その南西部でおこなわれた主な調査の概要である。なお、小松原Ⅱ遺跡として調査されたものも含んでいる。

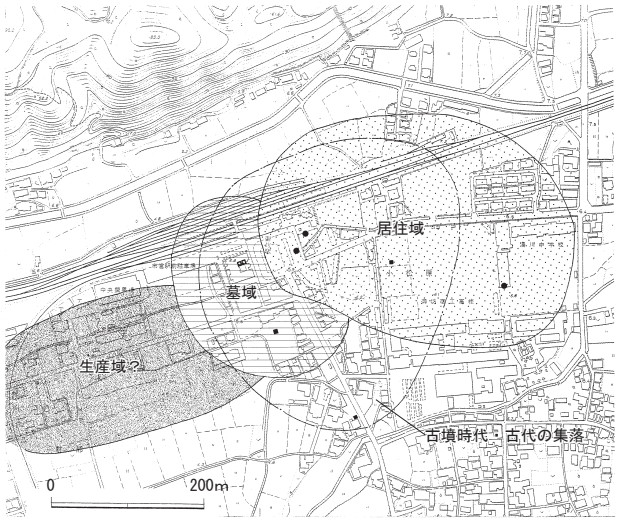


図９　蛭田坪遺跡周辺の弥生時代中期集落想定図

これらの成果から、御坊駅周辺には弥生時代中期と古墳時代の集落が展開していることや奈良時代を中心とする古代の遺構も広範囲に広がっていることが予想できる。検出された弥生時代中期の竪穴住居は２棟であるが、環濠と考えられる溝が数箇所で確認されている。また、同時期の住居をはじめとする遺構が御坊市立湯川中学校や県立紀央館高校の敷地などからも検出されており、当該期の遺物が出土する範囲から想定すると東西約400m、南北約300mの規模をもつ環濠集落で、日高平野の中でも拠点的な集落であった可能性が考えられる。隣接して方形周溝墓も確認されていることからも、集落（居住域）の西側に墓域が営まれていた可能性もある。このほか、今回確認している第２層を水田層と積極的に評価するなら、墓域の更に西側には生産域が展開していた可能性も考えられる。

また、弥生時代中期の集落と想定した範囲をやや西にスライドしたように古墳時代の集落も存在し、ほぼ同じ範囲で、古代の掘立柱建物や溝・土坑などが検出されている。古代の瓦などの出土も多く、瓦葺建物が存在したことが窺え、寺や官衙的な建物が存在した可能性が考えられる。

報告書抄録

ふりがな	ひるたつぼいせき
書　　名	蛭田坪遺跡
副　書　名	― 江川小松原線道路改良事業に伴う発掘調査報告書 ―
編著者名	川崎　雅史
編集機関	財団法人　和歌山県文化財センター
所　在　地	〒640－8404　和歌山県和歌山市湊571－1　　TEL　073－433－3843
発行年月日	西暦2010年9月15日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯 °′	東経 °′	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
蛭田坪遺跡（ひるたつぼいせき）	和歌山県（わかやまけん）御坊市（ごぼうし）湯川町（ゆかわちょう）小松原（こまつばら）	302058	27	33°54′22″	135°09′24″	20100701～20100723	65㎡	県道改良事業

所収遺跡名	種　　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
蛭田坪遺跡	散布地	飛鳥時代	谷状落ち込み 溝 ピット	弥生土器　須恵器 土師器　木製品 （木錘ほか）	

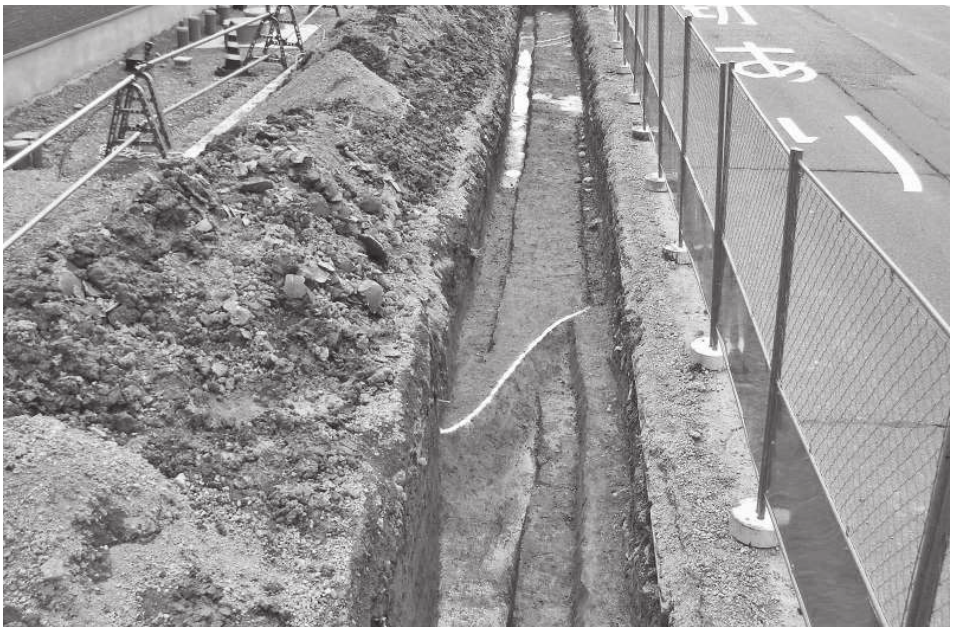
要　　約	調査区は幅1.5ｍ、長さ43ｍのトレンチ状で、東端で飛鳥時代と考えられる谷状の落ち込みを検出した。西側では溝や掘立柱建物を構成すると考えられる柱穴などを検出したが、これらの時期については明らかでない。蛭田坪遺跡はＪＲ御坊駅の南東に東西に長く拡がる遺跡であるが、弥生時代中期から中世にかけての遺構が多く展開するのは小松原Ⅱ遺跡と接する東側で、今回の調査区は、その縁辺部にあり遺構密度も薄い状況であった。遺構検出をおこなった面下に、古代以前の水田と考えられる層が存在することから、弥生時代から古墳時代の水田が拡がる生産域であった可能性もある。

１．遺跡遠景（矢印）
（南西上空から）

２．調査区遠景（矢印）
（北西から）

３．調査区近景
（西から）

１．調査区１（西から）



２．調査区２（東から）

３．調査区２（西から）

１．調査区３（東から）

２．調査区３（西から）

３．遺構１（南西から）

１．遺構１断面
（北西から）

２．遺構２
（北西から）

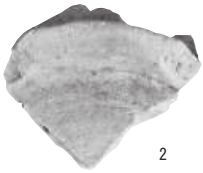
３．遺構３・４
（南から）

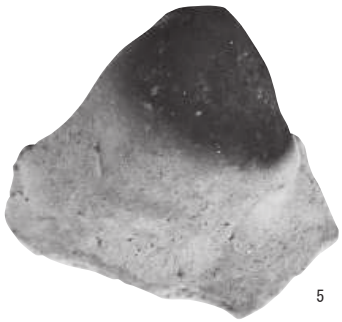
１．遺構５断面
（北から）

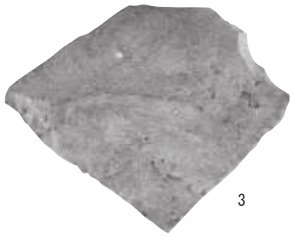
２．遺構７断面
（西から）

３．遺構８断面
（北から）

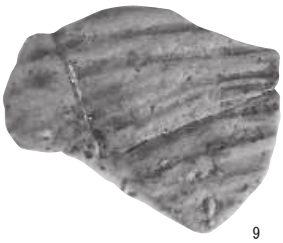
1


2

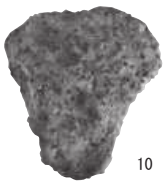

5


3

4


9

8


10

11

7

6

出土遺物

例　言

1．本書は、和歌山県御坊市小松原に所在する蛭田坪遺跡の発掘調査報告書である。
2．調査は、県道 191 号江川小松原線道路改良事業に伴うもので、和歌山県の委託を受けて、和歌山県教育委員会の指導のもとに、財団法人和歌山県文化財センターが実施した。
3．発掘調査は、財団法人和歌山県文化財センターの川崎雅史・山野晃司が、報告書の作成は川崎が担当した。
4．発掘調査及び遺物整理業務で作成した実測図・写真・台帳などの記録資料は、財団法人和歌山県文化財センターが、出土遺物は和歌山県教育委員会が保管している。

凡　例

1．調査並びに本書で使用した座標値は、平面直角座標系（世界測地系）第Ⅵ系のもので、値は km 単位で使用している。図面に使用している北方位は座標北で、標高は東京湾標準潮位（T．P．＋）の数値である。
2．土色は、農林水産省農林水産技術会事務局監修「新版標準土色帖」に準じ、土質は調査担当者の任意の判断でおこなっている。
3．調査で使用した調査コードは、10 － 24・027（2010 年－市町村番号・遺跡番号）で、記録資料はこのコードを用いて保管している。

本文目次

Ⅰ　調査に至る経緯と経過 …… 1
Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 1
Ⅲ　調査の方法と基本層序 …… 5
　1．調査の方法 …… 5
　2．基本層序 …… 5
Ⅳ　調査の成果 …… 5
Ⅴ　まとめ …… 7
　1．蛭田坪遺跡の立地 …… 7
　2．蛭田坪遺跡の位置づけ …… 9
報告書抄録 ……10
写真図版

挿図目次

図１　堅田遺跡環濠集落 …… 2
図２　遺跡所在地・ …… 2
図３　調査区全体図・断面土層図…… ３・４
図４　基本層序 …… 5
図５　遺構１出土遺物 …… 5
図６　遺構５～８ …… 6
図７　蛭田坪遺跡の立地 …… 7
図８　既往の調査区 …… 8
図９　蛭田坪遺跡周辺の
　　弥生時代中期集落想定図 …… 9

写真目次

写真１　調査風景 …… 1

表目次

表１　既往の調査 …… 8

蛭田坪遺跡

― 江川小松原線道路改良事業に伴う発掘調査報告書 ―

発行年月日／2010 年 9 月 15 日
編集・発行／財団法人 和歌山県文化財センター
印刷・製本／株式会社　協　和